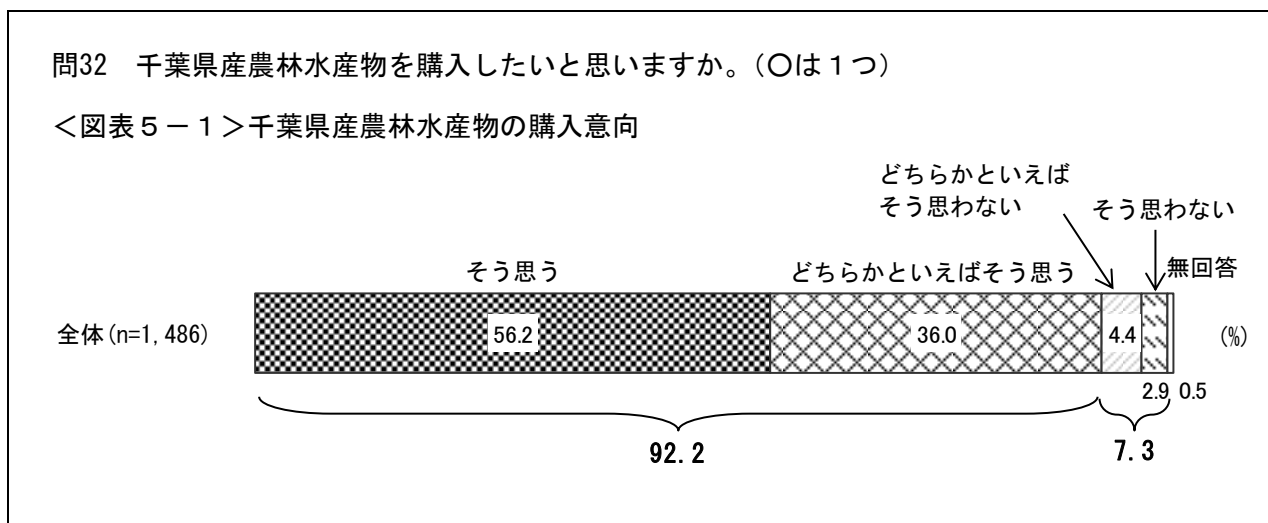


5 県の農林水産物について

（1）千葉県産農林水産物の購入意向

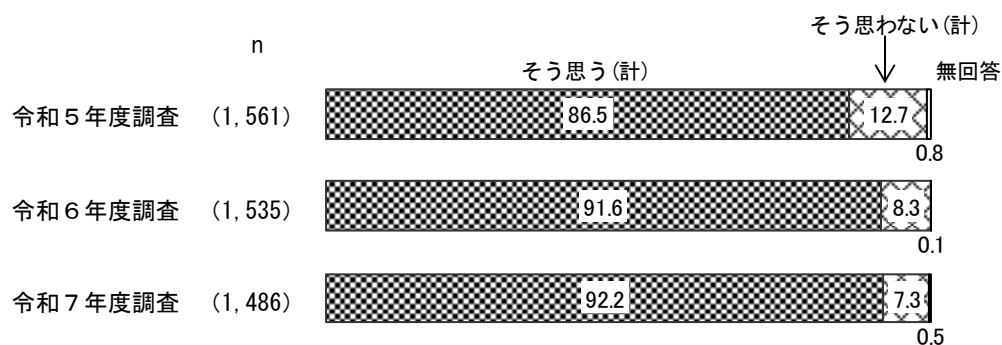
◇『そう思う（計）』が9割を超える



千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」（56.2%）と「どちらかといえばそう思う」（36.0%）を合わせた『そう思う（計）』（92.2%）が9割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（4.4%）と「そう思わない」（2.9%）を合わせた『そう思わない（計）』（7.3%）は約1割となっている。（図表5-1）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



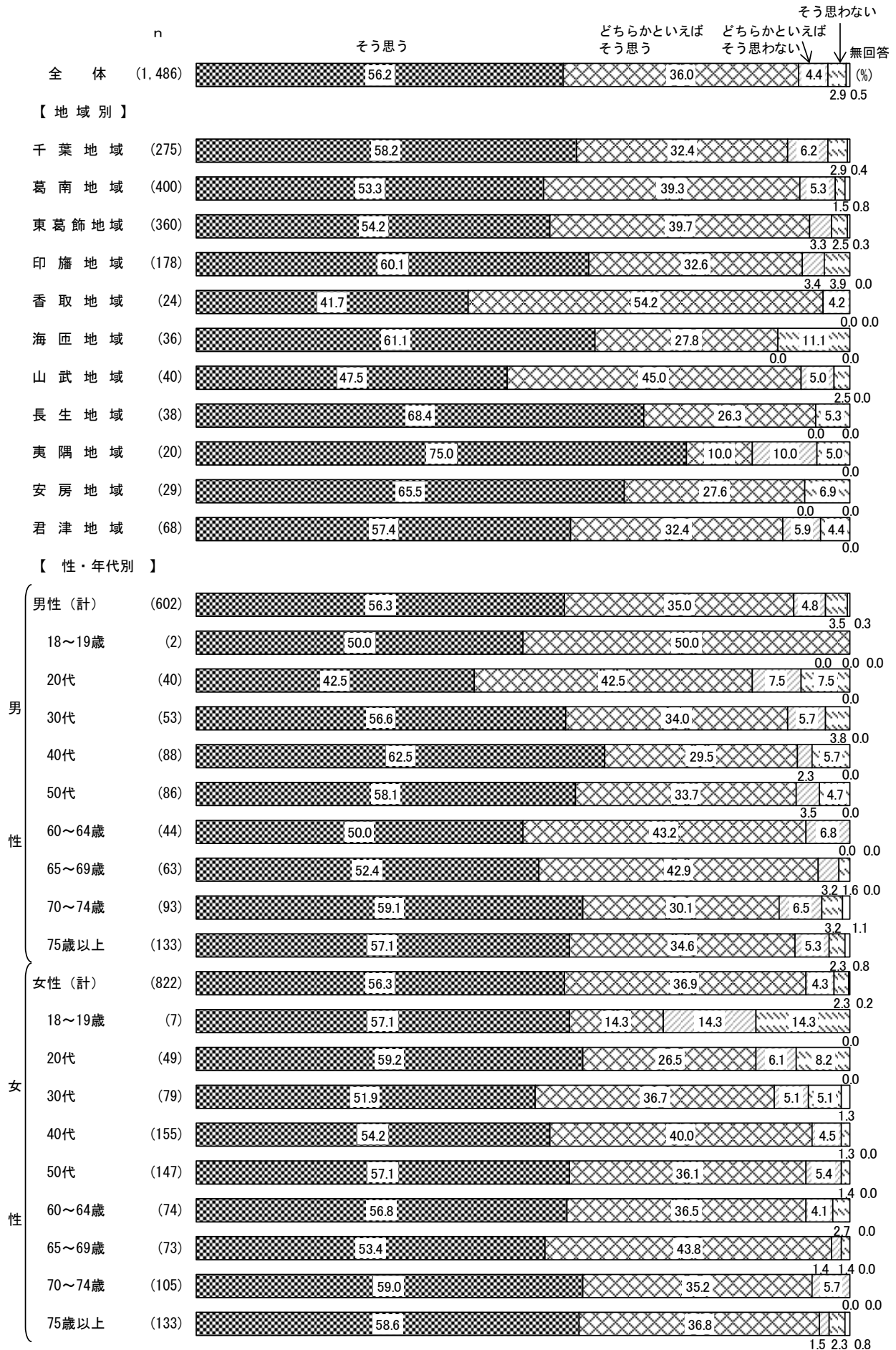
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表5-2）

【性・年代別】

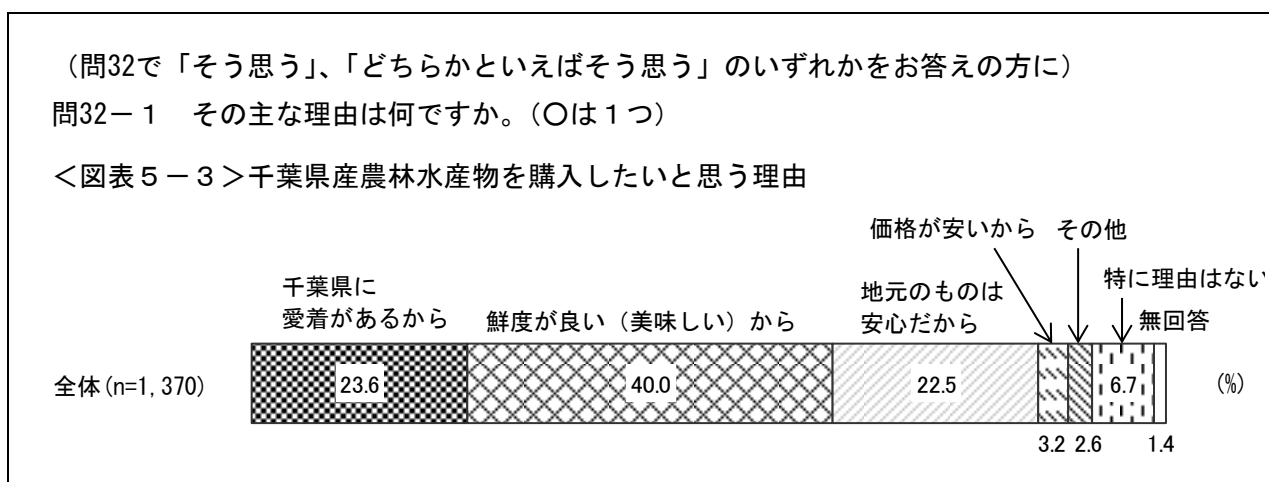
性・年代別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表5-2）

＜図表 5－2＞千葉県産農林水産物の購入意向／地域別、性・年代別



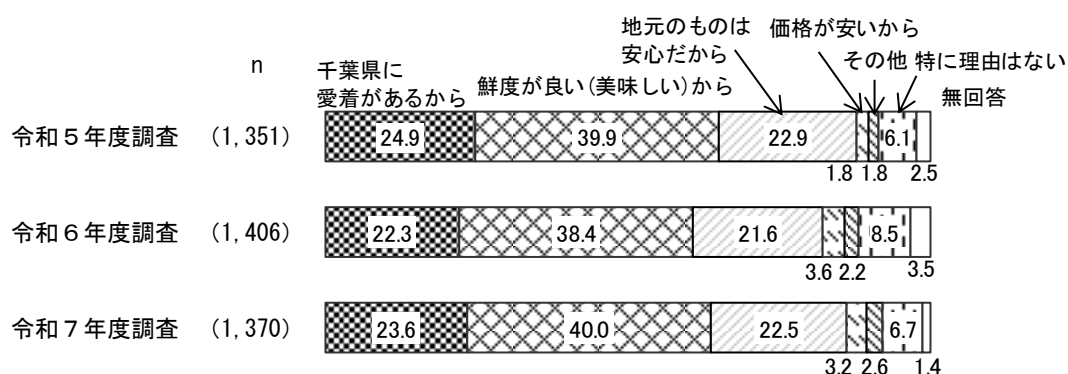
（１－１）千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

◇「鮮度が良い（美味しい）から」が４割



千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,370人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い（美味しい）から」（40.0%）が４割で最も高く、以下、「千葉県に愛着があるから」（23.6%）、「地元のものは安心だから」（22.5%）が続く。（図表５－３）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、「千葉県に愛着があるから」は“葛南地域”（29.2%）が約３割で高くなっている。（図表５－４）

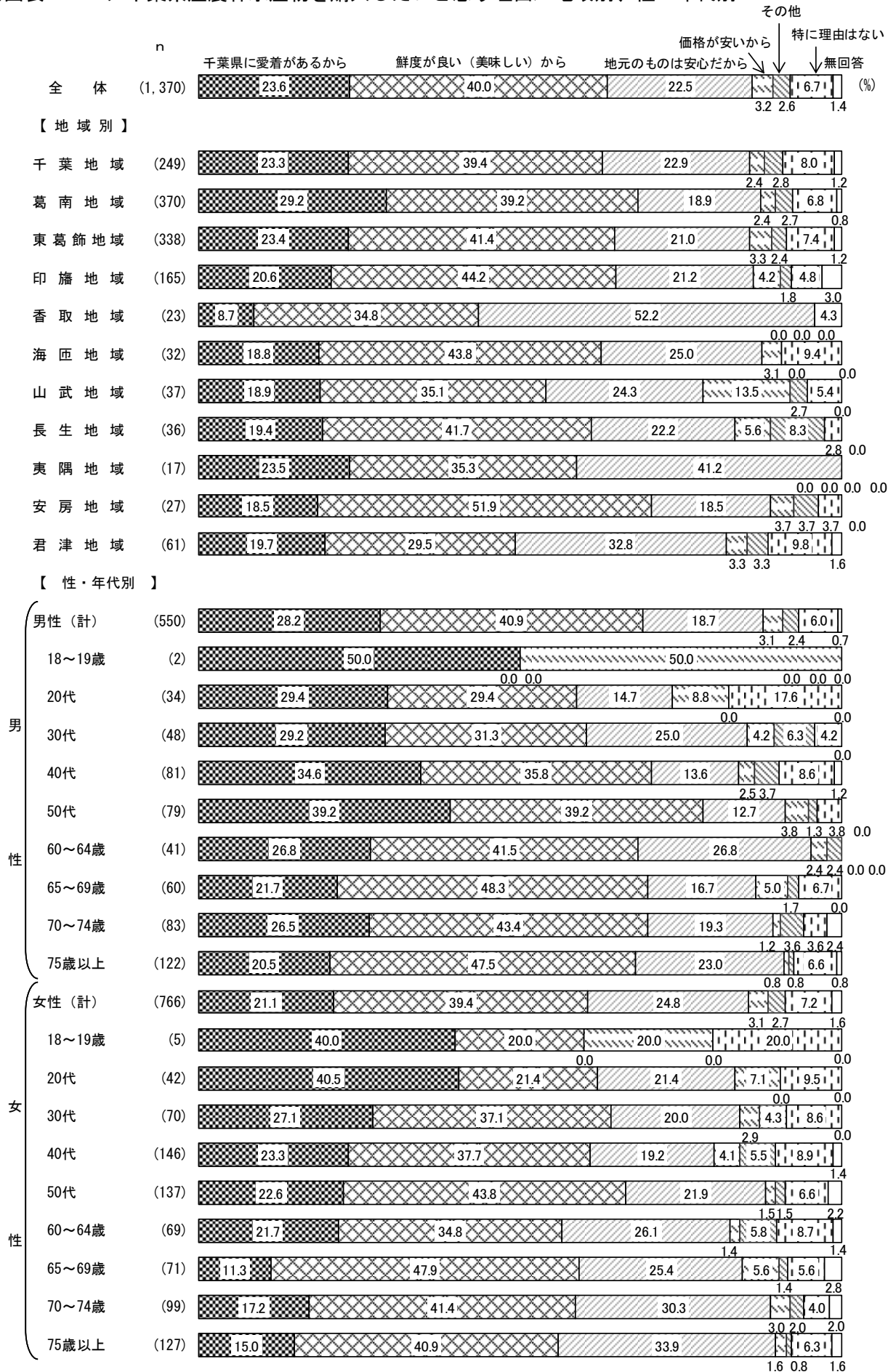
【性・年代別】

性・年代別にみると、「千葉県に愛着があるから」は女性の20代（40.5%）が４割、男性の50代（39.2%）が約４割、男性の40代（34.6%）が３割台半ばで高くなっている。

「地元のものは安心だから」は女性の75歳以上（33.9%）が３割台半ばで高くなっている。

（図表５－４）

<図表5-4>千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由／地域別、性・年代別

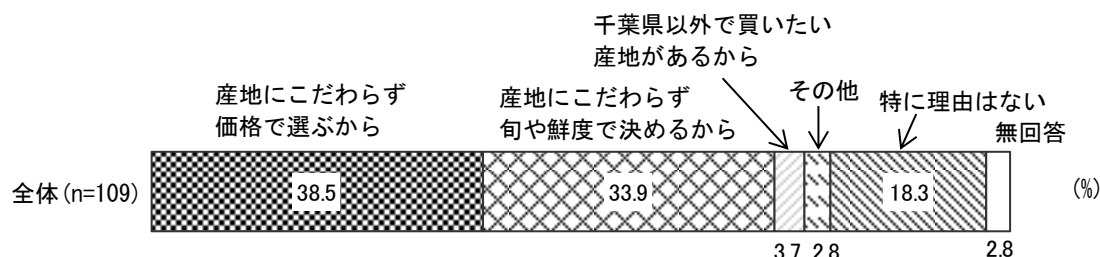


（１－２）千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

◇「産地にこだわらず価格で選ぶから」が約４割

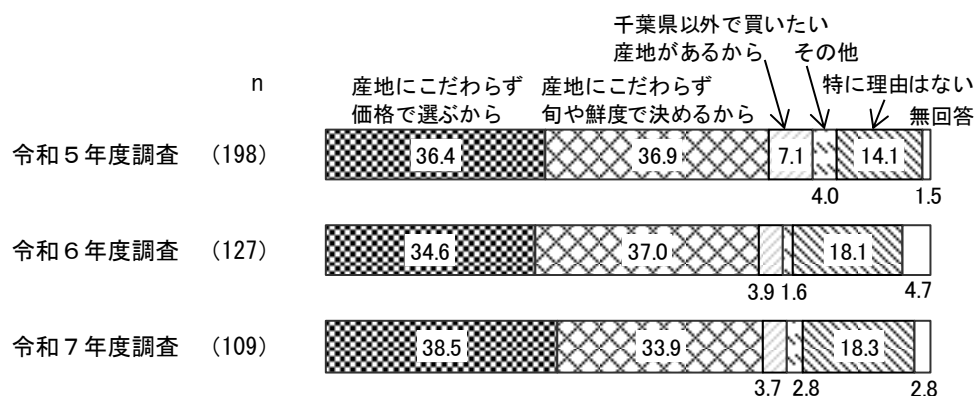
（問32で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」のいずれかをお答えの方に）
問32－２ その主な理由は何ですか。（○は１つ）

＜図表５－５＞千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由



千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した109人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず価格で選ぶから」（38.5%）が約４割で最も高く、以下、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」（33.9%）、「千葉県以外で買いたい産地があるから」（3.7%）が続く。一方、「特に理由はない」（18.3%）が約２割となっている。（図表５－５）

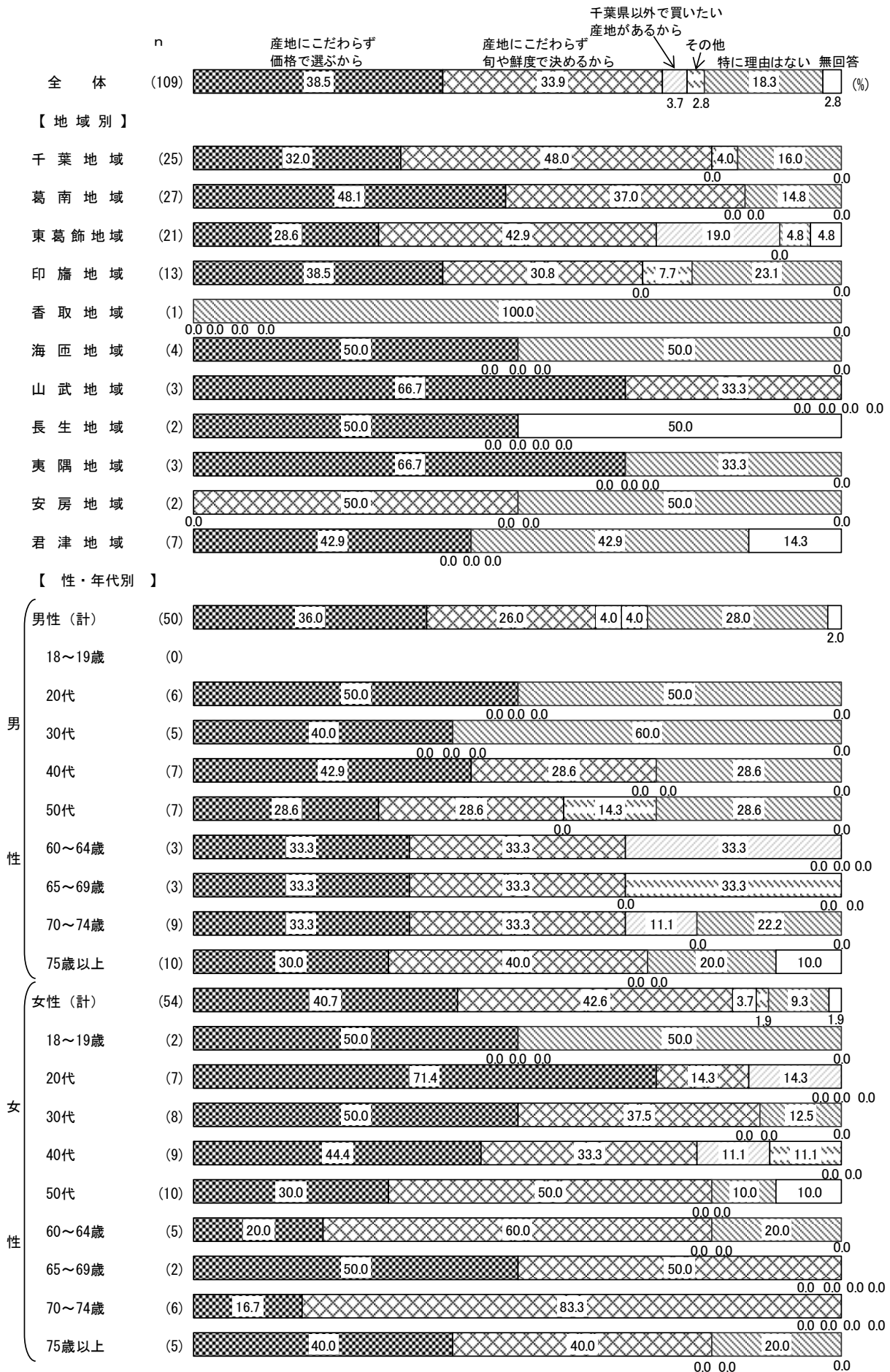
〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（８ページ「報告書の見方（５）」を参照）（図表５－６）

[参考]＜図表５－６＞千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由／地域別、性・年代別



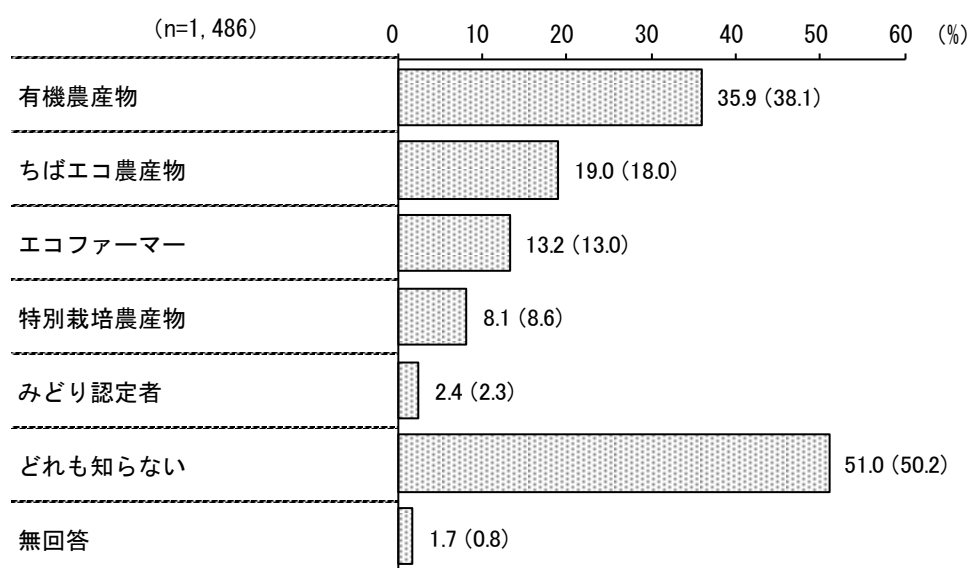
（２）環境にやさしい農産物や制度の認知度

◇「有機農産物」が３割台半ば

問33 千葉県では、農薬や化学肥料をできるだけ減らすなど、「環境にやさしい農業に取り組む農業者」や「環境にやさしい農産物」についての認証制度を設けています。次の農産物や制度を知っていますか。（○はいくつでも）

- （※）「有機農産物」 ⇒化学肥料・化学合成農薬を使用せずに栽培した農産物
 ※「有機農産物の日本農林規格（有機JAS規格）」に基づいて生産していることを認証された農業者は有機農産物と表示できる
- 「ちばエコ農産物」⇒県の基準に基づいて、化学肥料・化学合成農薬の使用を通常の５割以下に減らして栽培し、これを県が認証した農産物
- 「エコファーマー」⇒たい肥等による土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減技術に取り組む農業者
 ※農業者が作成した計画を県が認定
 ※令和４年７月１日に「みどり認定」の制度に移行
- 「特別栽培農産物」⇒化学肥料・化学合成農薬の使用を通常の５割以下に減らして栽培した農産物
 ※国のガイドラインに基づいて、生産者が定める責任者が確認
- 「みどり認定者」⇒土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減や、温室効果ガスの削減など、農業に由来する環境負荷の低減に取り組む農業者
 ※農業者が作成した計画を県が認定

＜図表５－７＞環境にやさしい農産物や制度の認知度（複数回答）



注）（ ）の数字は令和６年度の同様の項目による調査結果 n＝1,535

農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者・農産物や認証する制度を聞いたことがあるか聞いたところ、「有機農産物」（35.9％）が３割台半ばで最も高く、以下、「ちばエコ農産物」（19.0％）、「エコファーマー」（13.2％）、「特別栽培農産物」（8.1％）が続く。（図表５－７）

【地域別】

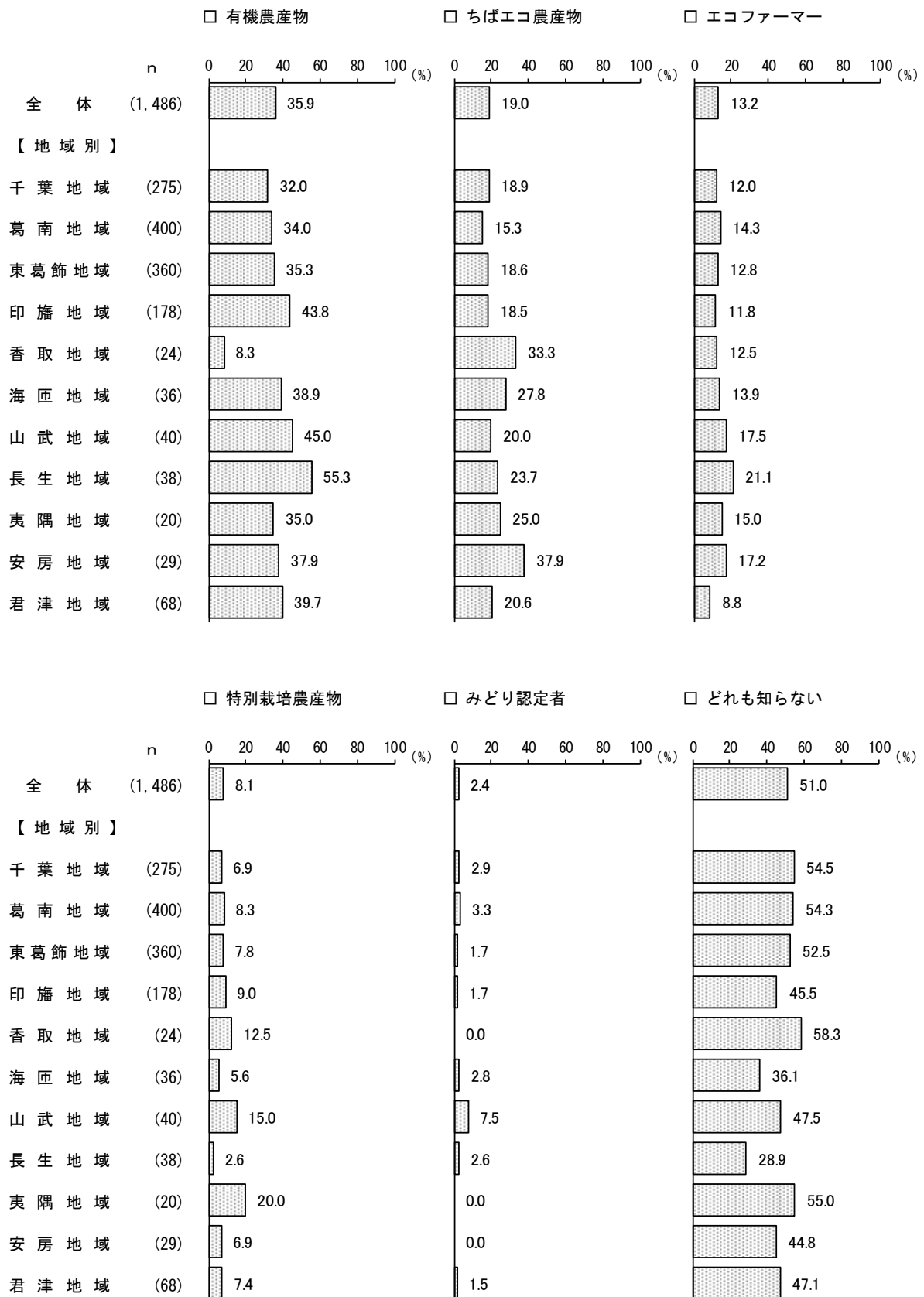
地域別にみると、「有機農産物」は“長生地域”（55.3％）が５割台半ば、“印旛地域”（43.8％）が４割台半ばで高くなっている。（図表５－８）

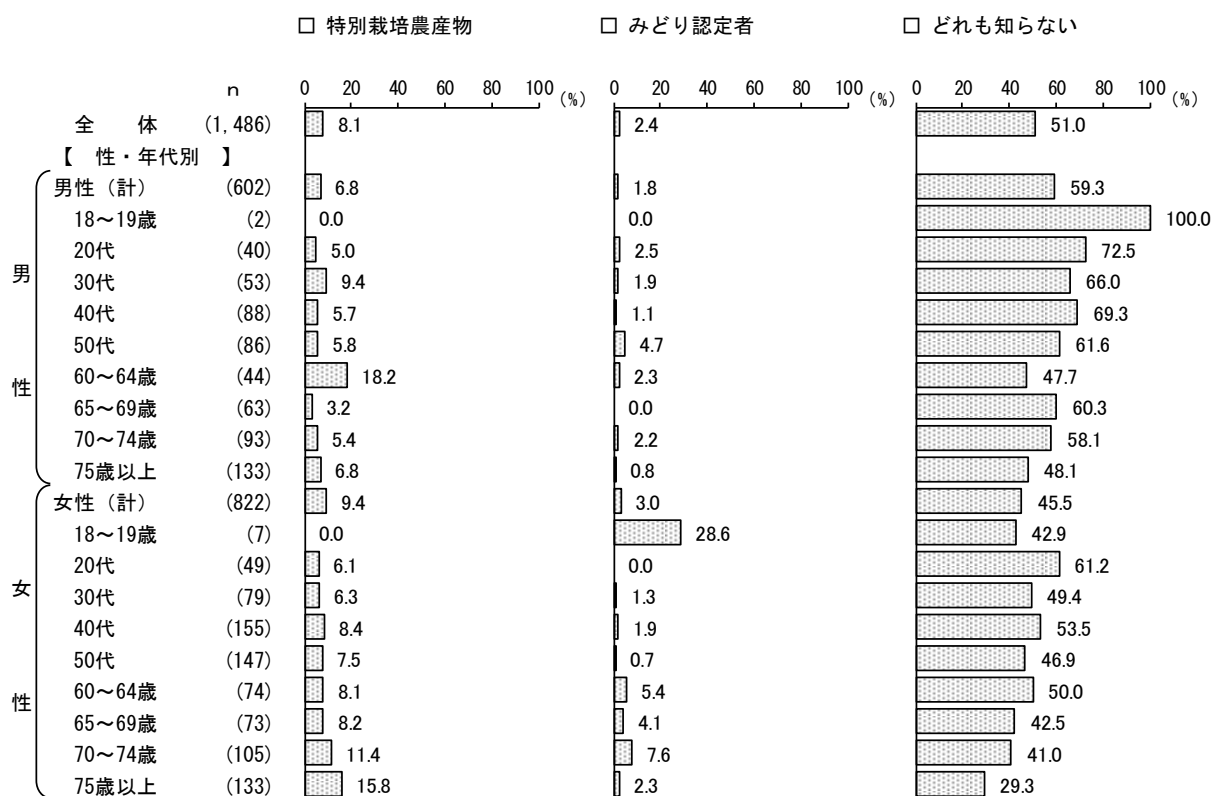
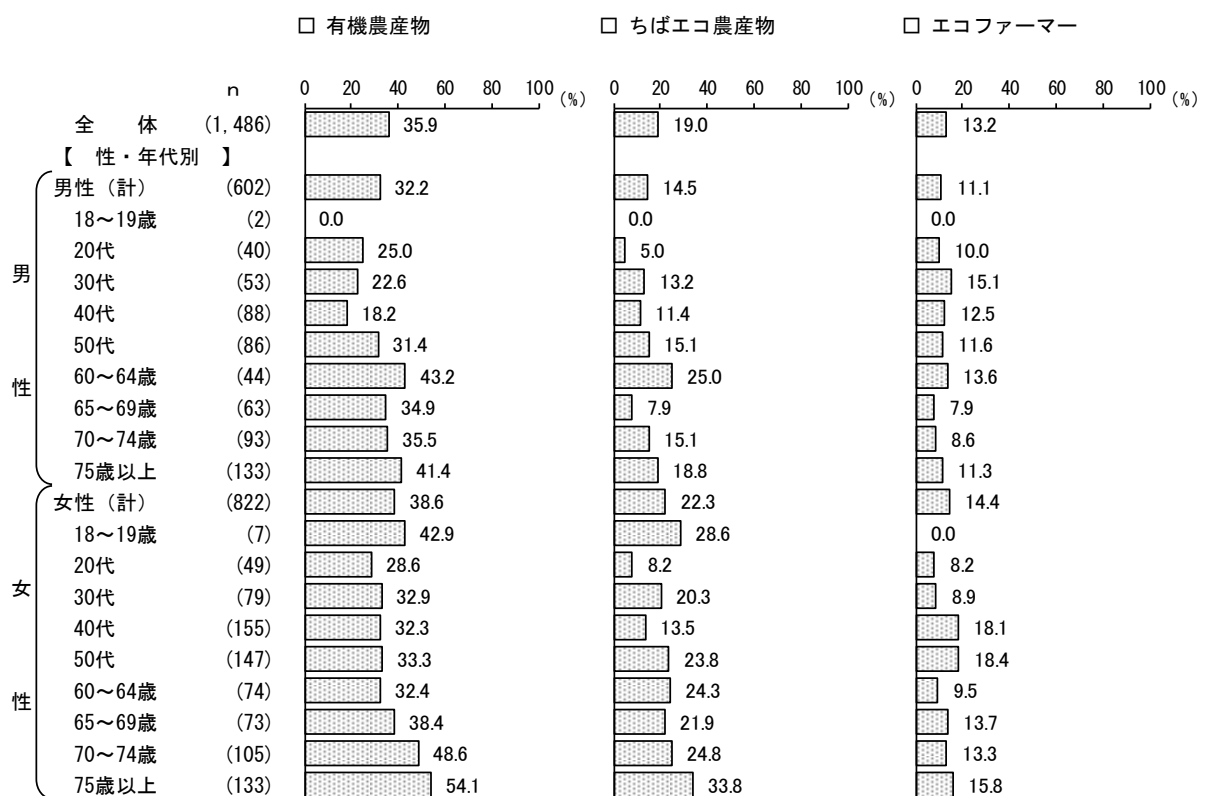
【性・年代別】

性・年代別にみると、「有機農産物」は女性の75歳以上（54.1%）が5割台半ば、女性の70～74歳（48.6%）が約5割で高くなっている。

「ちばエコ農産物」は女性の75歳以上（33.8%）が3割台半ばで高くなっている。（図表5－8）

＜図表5－8＞環境にやさしい農産物や制度の認知度（複数回答）／地域別、性・年代別





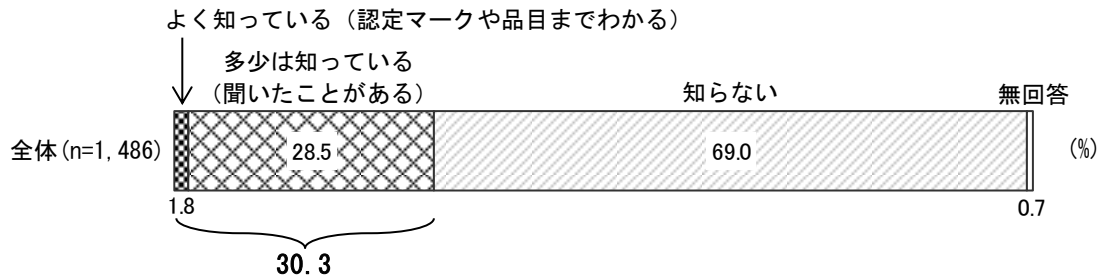
（３）「千葉ブランド水産物」の認知度

◇『知っている（計）』が３割

問34 「千葉ブランド水産物」を知っていますか。（○は１つ）

※千葉県では、千葉のさかなの認知度を高め、広く県内外にアピールするため、「銚子つりきんめ」、「外房イセエビ」、「九十九里地はまぐり」などの優良な県産水産物を「千葉ブランド水産物」として認定しています。

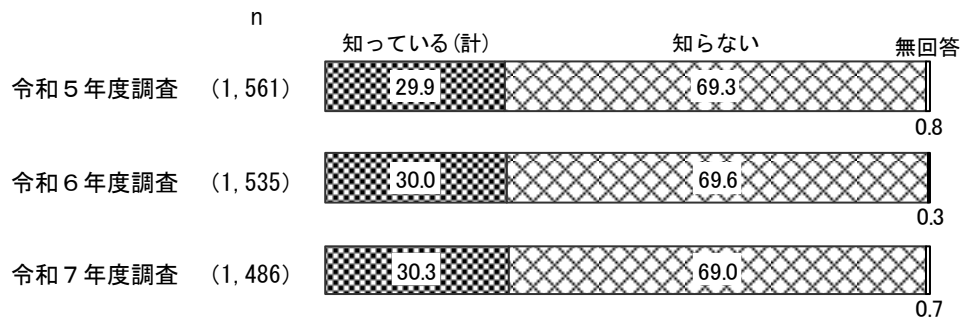
＜図表５－９＞「千葉ブランド水産物」の認知度



「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている（認定マークや品目までわかる）」（1.8％）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（28.5％）を合わせた『知っている（計）』（30.3％）が３割となっている。

一方、「知らない」（69.0％）が約７割となっている。（図表５－９）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『知っている（計）』は“海匝地域”（50.0％）、“山武地域”（50.0％）、“長生地域”（50.0％）が５割で高くなっている。（図表５－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている（計）』は男性の60～64歳（52.3％）が５割を超え、女性の70～74歳（42.9％）と女性の75歳以上（42.1％）が４割を超え、男性の75歳以上（40.6％）が４割で高くなっている。

一方、「知らない」は男性の50代（80.2％）が８割、女性の30代（79.7％）が約８割、女性の40代（76.8％）が７割台半ばで高くなっている。（図表５－10）

＜図表５－１０＞「千葉ブランド水産物」の認知度／地域別、性・年代別

